

# 浜松バッハ研究会演奏会

J. S. バッハ / J. S. Bach

# ヨハネ受難曲

JOHANNES - PASSION BWV245



2003年2月23日(日)

アクトシティ浜松 中ホール

主 催:浜松バッハ研究会  
豊橋バッハアンサンブル  
後 援:浜松市・浜松市教育委員会  
豊橋市・豊橋市教育委員会  
(財)浜松市文化協会  
(財)アクトシティ浜松運営財団  
(財)豊橋市文化振興財団  
静岡新聞・SBS静岡放送  
中日新聞東海本社  
K・MIX **FMHaru!**  
テレビはままつ  
子ヨ夕遠越準一文化振興基金

# 代表あいさつ

本日はお忙しい中、浜松バッハ研究会「ヨハネ受難曲演奏会」にご来場いただき、誠にありがとうございます。

私達は、バッハ没後250年にあたる西暦2000年年末から2001年年初にかけて、ドイツ演奏旅行を行いました。バッハが数多くの作品を作り演奏したライブチヒ聖トーマス教会の礼拝での演奏をはじめ、バッハゆかりの各地で演奏の機会にめぐまれ、より一層バッハの音楽に深く触れたいという思いを強くして帰国いたしました。それから二年、地道な練習を繰り返しやっと本日の演奏会にこぎつけることができました。私達にとっては十年ぶりの再演となる「ヨハネ受難曲」ですが、その十年の「あゆみ」が、本日の演奏の中に深くきざまれていることを願っております。

さて、この二年の間に世の中は「2001.9.11」の惨劇以降、心を痛める出来事がつづいていきます。一層深刻になる経済不況、凶悪化する犯罪、一触即発の戦争の危機など、心休まる時がないほどです。そんな世の中が、私達の個々のつながりにも影を落とし、心の余裕をなくし、ギスギスとした対立を生み出します。キリストを十字架に向わせた群衆、裏切った弟子ペテロ、とまどいながらも多勢に押し切られた総督ピラトなど、罪深きおろかな人々の姿に、今の私達の姿が重なってきます。しかし私の心には練習の折に三澤先生のおっしゃった「悔い改めずして活躍した者はいない」という言葉が、ひとすじの希望の光りとして差し込んでいます。現在に生きる私達がこの状況の中で、世界人類の平和という真理を求め、自らの行いを悔い改めることができたとしたら、今の暗澹とした状況を打ち破ることができるのではないかと、この「ヨハネ受難曲」を歌いながら思わずにはいられません。

最後になりましたが、本日ご来場くださいました皆様、常日ごろより私たちの活動を支えてくださっている皆様に会員一同心から感謝いたします。私達の演奏とこの曲に託す1人ひとりの思いを、どうぞごゆっくりお聞き下さい。

浜松バッハ研究会代表 早川徳次

## 上演曲目

J.S.バッハ作曲「ヨハネ受難曲」  
J.S.Bach "Johannes-Passion": BWV245

第1部：第1-14曲

----- 休憩：Intermission -----

第2部：第15-40曲

(^\_^)( ' \_ ' )( \_ )( \* \_ \* ) **出演者一覧** (^\_^)( ' \_ ' )( \_ )( \* \_ \* )

**合唱団**

|             |  |                                  |                                  |  |
|-------------|--|----------------------------------|----------------------------------|--|
| <b>ソプラノ</b> | 井浦芙蓉子、井戸恵子、<br>小林京子、萩野美雪、<br>毛利優子        | 井戸恵子、戸島美湖、<br>早川美香               | 今村陽子、野田真弓、<br>端山恵美               | 大場美智子、岡田彩子、<br>長谷川悠、早川真央、<br>星加明子、三宅ゆりの、         |
| <b>アルト</b>  | 安藤美津恵、伊藤道子、<br>小林益世、武田清美、<br>谷中理敏子、山田セキ子 | 伊藤道子、鈴木理恵、<br>浪崎加代子              | 小貫素子、鈴木瑠美子、<br>長谷川明子             | 金子恒江、木山道子、<br>清木穂名美、高木克子*、<br>馬淵京子、森田悦子、         |
| <b>テノール</b> | 川口 強、長谷川孝、<br>青木繁光、駒沢真司、<br>長谷部雅彦        | 河野周平、早川徳次、<br>安藤佑治、鈴木秀明、<br>毛利行弘 | 柴原貞幸、端山好彦、<br>大石泰由、清木 達、<br>安井研一 | 戸島準一郎、丹羽哲也、<br>岡村好偉、小貫勇作、<br>萩野 潔、長谷川正仁、<br>山田和典 |

\* 合唱練習ピアニスト

**管弦楽団**

|                   |   |                                     |
|-------------------|---|-------------------------------------|
| <b>第1 ヴァイオリン</b>  | 北川靖子、生駒尚子、<br>木村英道、田邑利香、<br>小林 勝、山内絵理、<br>神農清志、山内 明 | 中林尚之、小林真知子、<br>水谷奈緒子、小林健太郎、<br>岸仲順子 |
| <b>第2 ヴァイオリン</b>  |   |                                     |
| <b>ヴィオラ</b>       |   |                                     |
| <b>チェロ</b>        |   |                                     |
| <b>コントラバス</b>     | 田邑元一  |                                     |
| <b>リュート</b>       | 矢澤勝之  |                                     |
| <b>ヴィオラ・ダ・ガンバ</b> | 服部好弘  |                                     |
| <b>フルート</b>       | 木村伊都子、松永寛美  |                                     |
| <b>オーボエ</b>       | 村瀬正巳、大橋弥生   |                                     |
| <b>ファゴット</b>      | 曾布川利貞   |                                     |
| <b>オルガン</b>       | 花井 淑  |                                     |

**独唱**

**テノール**：西垣俊朗、**バス・イエス**：小原浄二  
**ソプラノ**：藤崎美苗、**アルト**：永島陽子、**バス**：初鹿野剛

**指揮**：三澤洋史

**録音**：福本信夫



## 主な出演者のご紹介

### 指揮：三澤洋史



群馬県出身。国立音楽大学声楽科卒業後、指揮に転向。1984年 ベルリン芸術大学指揮科を首席で卒業。以来、オペラ、オラトリオ指揮者として活動を始める。二期会合唱団、東京オペラ・シンガーズ、新国立合唱団などプロ合唱団の指導に定評があり、シャルル・デュトワ、ホルスト・シュタインなど外来指揮者からの人望も厚い。我が国における合唱指揮者の第一人者として広く知られている。バッハに深く傾倒しており、「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」「口短調ミサ曲」などの大曲を全て暗譜でレパートリーに有する。かつて福音史家として共演したエルンスト・ヘフリガー氏からも絶賛されている。2000年暮れから2001年初めにかけて、浜松バッハ研究会と共にドイツ演奏旅行に行く。エアフルト、ハレでの口短調ミサ曲の成功に加えて、バッハが晩年カントールとして活躍したライブチヒの聖トマス教会では、新年の音楽礼拝を聖トマス教会聖歌隊に代わって務めた。1999年より毎年、夏に開催されるワーグナー音楽祭として世界的に有名な「パイロイト音楽祭」で、祝祭合唱団の指導スタッフの一員として従事している。またミュージカルや音楽劇などの作曲・台本・演出をはじめ、各種講演や、NHK FM 番組における解説など、演奏活動以外にも幅広くかつ精力的に活躍。日本顕彰会より社会貢献者賞受賞、上毛新聞社より上毛音楽賞受賞。愛知県立芸術大学、京都教育大学、東京藝術大学非常勤講師や、名古屋芸術大学客員教授、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール専任指揮者などを経て、現在、新国立劇場合唱団合唱指揮者。1990年より浜松バッハ研究会常任指揮者。

### テノール独唱：西垣俊朗



大阪音楽大学大学院修了。在学中より宗教曲に手を染め、カンタータ、オラトリオの演奏には欠かせないコンサート歌手として活躍。特にバッハの「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」等のエヴァンゲリスト歌いとして高く評価されている。1978年、79年、84年、90年と名テノール、エルンスト・ヘフリガー氏と「マタイ受難曲」で共演。84年、85年には日本オラトリオ連盟のソリストとしてヨーロッパ各地で演奏し好評を博す。その後もクリストファー・ホグウッド氏、ヘルムート・ヴィンシャーマン氏、アグネス・グロスマン氏等の指揮のもと内外で演奏している。オペラではロッシニ、モーツァルトの作品をはじめ、日本のオペラも多数出演している。昭和59年度神戸市文化奨励賞受賞、平成6年度兵庫県芸術奨励賞受賞。浦山弘三、エルンスト・ヘフリガー両氏に師事。関西二期会会員。大阪音楽大学、神戸大学各講師。浜松バッハ研との共演の歴史は1988年の「マタイ受難曲」演奏会に始まる。

### バス独唱（イエス役）：小原浄二



盛岡市出身。岩手大学卒業後、東京芸術大学声楽科に進学し首席で卒業。松田トシ賞受賞。同大学院修了。声楽を佐々木正利、伊藤亘行、多田羅迪夫、H.クレッチマールの各氏に師事。芸大在学中は、小林道夫氏のもとバッハカンタータクラブに所属し研究・演奏を重ねる。卒業後は主に宗教曲のソリストとして国内外で活躍。92～94年、バッハコレギウムジャパンのコラスマスター及びソリスト。94～95年、ドイツに留学し各地で演奏活動を行う。最近では新日フィル定期公演における、G.ボッセとの共演や、世界的宗教音楽の名指揮者であるH.J.ロッチュ、G.Ch.ピラー等との共演で高い評価を得ている。現在、高知大学教育学部助教授。高知バッハカンタータフェライン指揮者。アンサンブル BWV 2001 メンバー。

## ソプラノ独唱：藤崎美苗



岩手大学教育学部卒業，東京芸術大学声楽科卒業，同大学院修士課程独唱専攻修了。声楽を佐々木まり子，佐々木正利，瀬山詠子，朝倉蒼生の各氏に師事。また東京芸術大学在学中にバッハ・カンタータ・クラブにおいて小林道夫氏の指導のもと研鑽を積む。第10回友愛ドイツ歌曲コンクールにおいて第2位入賞。これまでにJ.S.バッハの教会カンタータ，「ヨハネ受難曲」，「ミサ曲口短調」，「クリスマス・オラトリオ」，ヴィヴァルディ「グローリア」，モーツァルト「レクイエム」，メンデルスゾーン「エリア」，フォーレ「レクイエム」，サン・サーンス「レクイエム」など多くの宗教曲でソリストを務める。京葉混声合唱団，コーロ・プリランテ，志木第九の会，みずほ銀行合唱団，横浜ルミナス・コール各ヴォイストレーナー。浜松バッハ研とは2000年の「ミサ曲口短調」演奏会以来、ドイツ演奏旅行も含めて共演が続いている。

## アルト独唱：永島陽子



桐朋学園大学音楽学部声楽科卒業。1976年春渡欧。1976年～1980年オーストリア、ウィーン国立大学リート・オラトリオ科に在籍。1980年旧東ドイツ、ライプツィヒに於ける国際バッハ・コンクールにて女声5位入選。同年ウィーン国立音楽大学リート・オラトリオ科を最優秀にて卒業。1980年～1986年旧西ドイツ、デトモルト国立音楽大学声楽科に在籍。1983年同大学を最優秀にて卒業。1986年演奏家国家試験を最優秀にて修了。萩谷納、ヴォルフガング・シュタインブリュック、ローマン・オルトナー、ヘルムート・ドイツ、ヘルムート・クレッチマール、ユリア・ハマリ、ディートリッヒ・フィッシャー＝ディースカウの各氏他に師事。1980年以来ドイツを中心にヨーロッパ各地、イスラエル、日本で、バッハなどの宗教作品を中心に、リートおよびオラトリオの演奏活動を続けている。1997年春帰国。現在、桐朋学園大学音楽学部非常勤講師。浜松バッハ研とは2000年の「ミサ曲口短調」演奏会以来、共演が続いている。

## バス独唱：初鹿野剛



静岡県出身。県立清水南高芸術科、東京芸術大学音楽学部声楽科を経て同大学院音楽研究科声楽（独唱）専攻修了。二期会オペラスタジオ第42期マスタークラス修了。大学卒業時に松田トシ賞受賞。スタジオ修了時には優秀賞を受賞。これまでに国内の著名な指揮者や各オーケストラのもとでバッハの主要作品を中心に、独唱者として多くの公演に迎えられている。2002年7月には静岡音楽館AOIとの共同制作による初リサイタル「バッハ・カンタータの夕べ」を開催。演奏活動の傍ら、合唱団における宗教作品・オペラ等の合唱の指導にもあたっている。声楽を後藤千恵子、芳野靖夫、原田茂生、マルチェッラ・レアーレの各氏に師事。志木第九の会、サウンドブリッジ合唱団、淡交混声合唱団副指揮者。伊豆新世紀創造祭記念合唱団音楽アドバイザー。二期会会員、(社)日本演奏連盟会員。浜松バッハ研とは2000年暮からのドイツ演奏旅行以来、共演が続いている。

## コンサートマスター：北川靖子



W.シュタフォンハーゲン教授に師事。東京芸術大学卒業。1971年オーストリア国立ウィーン音楽大学入学、ヴァイオリンをF.サモヒール教授に、室内楽をF.ホレチェック教授に師事。1975年ウィーン音楽大学を全教授一致の最優秀で卒業。ザルツブルグ・ミラベル宮殿、東京でリサイタル。1976年ハンブルグ交響楽団に入団、コンサートマスターに就任。1981年ハンブルグ市文化局主催コンサートでリサイタル。1987年東京にてリサイタル、1985年12月～91年12月北川暁子と25回の「デュオの夕べ」を開催。1992年、1997年、1999年～2002年北川暁子と「ソナタの夕べ」を開催。現在2001年11月に高松に設立された瀬戸フィルハーモニー交響楽団コンサートマスター。浜松バツ八研・管弦楽団には1988年の「マタイ受難曲」以来、ほとんどの演奏会に参加。

## オルガン：花井 淑



名古屋音楽大学音楽学部器楽科卒業。オルガンを住山玖爾子、本田七瀬、故F.ボーンの各氏に師事。また、Z.サットマリー、故A.シェーンシュテット、H.フォーゲルの各氏によるオルガン・マスタークラスに参加。1982～1986年、名古屋音楽大学嘱託研究員を経て、現在、名古屋・カトリック五反城教会オルガニスト、五反城教会オルガニスト養成コース講師。古楽アンサンブル<アーベント・ムジーク>メンバー、ソリスト及び通奏低音奏者として活躍中。日本オルガン研究会、日本オルガニスト協会会員。浜松バツ八研究会とは1996年の「マタイ受難曲」から共演が続いている。

## チェロ独奏：神農清志

## リュート独奏：矢澤勝之

1941年生まれ。東京学芸大学、同専攻科修了。「リュートの会」の代表を長年務めていた。現在「東京コンソート・オブ・ヴァイオルズ」のメンバーで、リュートおよびコンティヌオを担当。高校の教師を勤めている。

## ヴィオラ・ダ・ガンバ独奏：服部好弘

学生時代より名古屋大学古楽研究会に所属し、先輩諸兄の指導を受け古楽アンサンブルを研鑽。卒業後も名古屋バロック音楽協会主催のセミナー等に参加し、リコーダー、ヴィオラ・ダ・ガンバの指導を諸氏より受ける。現在、名古屋および豊橋を中心に古楽演奏活動を行なう。名古屋バロック音楽協会会員。

## 浜松バツ八研究会管弦楽団

浜松交響楽団、浜松室内楽愛好会、ソナスアンサンブルなどから、バツ八およびバロック音楽をこよなく愛する有志が集い、浜松バツ八研究会公演の度に組織される。少ない練習にもかかわらず、レベルの高いアンサンブルで好評を得ている。昨年は独唱者常連の初鹿野剛氏の静岡リサイタルにも参加、合唱団との共演以外の活動も始めようとしている。

歳をとってくると、同じ風景を見ていても若い時とは全く違う感じ方をするものだ。北風にひらひらと舞いながら、街路樹の小枝から離れた枯れ葉が、襟を立てて街頭を急ぐ人々の足下に音もなく落ちてゆく。僕はふと立ち止まり、大都会の人の流れにさからいながら肌寒い大気を大きく吸い込む。晩秋の空はどこまでも澄み切って高く、そして青い。僕は思う。「自分の人生もいつか、あの枯れ葉のように誰にも気づかれずにひっそりとこの世界という枝から切り離されて旅だっていくのだ。たったひとりで。」

最近ブラームスの音楽を好んで聴く。昔は嫌いだった。意欲と信念で人生は乗り切れると信じていた若い時代には、ブラームスの音楽の中に表現された「諦念」という概念が我慢できなかったのだ。若い時には何度でもやり直せると思った人生、何にでもなれると思った自分だったが、こうして振り返って見ると、結局人生なるようにしかならなかった。どんなに頑張っても、あるいは頑張らなくても、得るべきものは得、来るべきものは来、去るべきものは去っていった。これを「諦念」と呼ぶのであれば、若い時にブラームスを理解出来なくて当然かも知れない。

運命論だけでなく、自分が様々な局面において、自分の意志で何を選び取ってきたのか、何を捨ててきたのかということを考えても、自分の現在の境遇は偶然の産物などでは全くないと思える。自分が仮にもう一度人生を繰り返したとしても、結果的には今の自分と同じようなところに落ち着く気がする。何故なら、どんな環境にあっても自分は自分風に二者択一を選び取っていき、自分の居心地の良いように周りを整えていくだろうから。ちょうど自分の部屋が、どこに引っ越してもいつも自分っぽくなってしまいうように……。だとしたら自分の人生の最期も自分っぽいのだろうか？では自分っぽい最期とは一体どのようなものなのだろうか？

親しい知人の死に接する機会も、歳を重ねていく内に増えてくる。時には、家族や愛する者を残していくことが無念で、どうしても生きたいと必死で願いながらも、運命に身を任せるしかない人の姿も目の当たりにしてきた。でも、最近クリスチャンの友人の葬儀に出席した時は、その牧師さんの説教を聞いてとてもすがすがしい気持ちになった。

友人は、僕の高校の先輩であるクラリネット奏者の奥さんで、音大の音楽科を出ていた。敬虔な信者さんで教会に足繁く通っていた。娘さんがひとりいて、僕の下の子と幼稚園時代からの同級生である。子供がそのミッション系の幼稚園の時代には、父兄として彼等夫婦と一緒に二度にわたってボランティアでコンサートを開いたりしたものだ。

その彼女が一年半前から体の不調を訴え、癌であることが判明してからというもの、瞬く間に病状は悪化し、手当の甲斐なく年の暮れのあわただしい時期にとうとう帰らぬ人となってしまった。一人娘を残して旅立っていくことがさぞや心残りだったに違いないと思うと、それだけで胸が苦しくなる。

そうした彼女の気持ちを察してか、牧師さんの説教はこう始まった。「今日の葬儀はこの他悲しい。こんな状態で亡くなって彼女は本当に天寿を全うしたと言えるのだろうか？わたしはそうは思わない。」おいおい、牧師がそんなこと言ってしまっているのかな？と思ったが、彼はさらに続けてこう言った。

「私はずっと信者としての彼女を見続けてきましたが、彼女は闘病生活も含めて、自らの運命の中で精一杯生きたと、これだけは間違いなく言えるでしょう。与えられた環境が満足のいくものであったかではなく、その中でいかに生きたかが最も大切なことなのではないでしょうか？」さらに彼女の夫、すなわち僕の先輩は最後の挨拶でこう言った。

「彼女の死に顔はとても安らかでした。それを見て僕は、彼女はいい人生を送ったのだと確信して嬉しかったです。それは全てみなさんのおかげです。」

こんな新鮮な気持ちで葬儀場を出たのは初めてだった。そして自分も信仰者のはしくれであっ

て、信じられる神を心に持っていることがこれほど誇らしくうれしく感じられたこともなかった。人のいのちが死をもって終わりになってしまうものでないこと、そのひとりひとりの生き様をじっと見つめ、抱き留めてくれる存在を信じて生きられることは素晴らしいことだと思った。

そうした我々信仰者の視線の先にキリストがいる。では救い主キリスト自身の最期とは一体どのようなものだったのだろうか？

実は、彼の生涯は徹底的に他人の為に捧げられたものであり、この世的に見れば成功人生のまさに正反対のものであった。それどころか彼は罪なくして陰謀によって捕らえられ、裁かれ、罪人達と共に十字架にかかって死んだ。弟子達は皆、彼を見捨てて逃げ去った。無念といえば、これほど無念な死に際もあるまい。一体神の子と言われる者がこんな最低な死に方をしていいのだろうか、と疑問を投げかけたくなる。しかしそれだからこそ、彼の最期はまさに彼らしい最期なのである。

世の中を調子良く立ち回ってスイスイと波に乗って生きていく者がいる。時には悪事をさえ犯し、涼しい顔をして口をぬぐって成功していく者もいる。一方では努力しても努力しても報われぬ者がいる。親切を仇で返される者もいれば、よかれと思ってやったことで反対に罪に問われる者すらいる。

世の中は不公平である。そうなのだ。だからキリストでさえも報われぬ人生を送らねばならなかったのだ。しかし彼は救世主である。もし望めばこんな風に自分を貶めなくてもよかったのではないか。ということは、こうとも考えられないだろうか？ すなわち・・・。

彼は不公平なこの世の中をむしろ是認しているのではないだろうか。世の中が、善悪がただちに明るみに出て評価されるといった単純なものでなく、不透明、不公平で不完全だからこそ、我々人間には神という概念が必要であり、信仰というものが必要なのではないだろうか。

信仰とは目に見えないものを信じ、この世的でない価値観に従って生きることである。この世に完全なるものはないが、どこか別の所には真実の国があり、そこでは人類の全ての想いや行為は決して見過ごされることなく、隠れたままで忘れ去られることなく、全てが明らかになり、正當に評価されるのである。これを信じて、人に見られることではなく、自らの真実なる心に従って生きる者を人は信仰者と呼ぶ。信仰者とは正しい者のことではない。信仰者とは「希望」を持っている者のことである。そしてその理想の姿はキリストなのである。最も大きな希望を持っている者という意味において・・・。

キリストの受難は痛ましい。けれども彼は、どのような極限状態の中でも人は希望を持って生きられるのだということを、身をもって力強く示しているのである。まさに逆説的なアプローチでもって彼は我々に人生における希望とはなんぞやということを訴えたかったのである。そしてその後の彼の復活こそは、信仰者の希望が究極的に成就した姿であろう。彼はまさに信仰者の初穂として蘇り、神の国の勝利を我々に示したというわけである。

そうしたキリスト像はヨハネの福音書の中では、とりわけ強調されている。バッハも作曲にあたっては、そうしたヨハネの肯定的精神を受けている。受難曲の中には復活の場面はないが、終曲の明るいコラールに辿り着く時、聴衆はこの救いようのない不条理な物語の向こうに、まるで激しい雨の上がった後の空一面に色鮮やかな虹を見るように、希望をかいま見るのである。これこそがヨハネ受難曲の鑑賞の醍醐味ともいべきものである。

僕も何度目かのヨハネ受難曲を振る。ここまで生きてきて、諦念とは希望につながる道なのだと最近分かってきた。もしかしたら少しは以前と違ったヨハネ受難曲が演奏出来るかも知れないと思っている今日このごろである。



# 「ヨハネ受難曲」 BWV245：概説

**表題** Passio (Domini nostri Jesu Christi) secundum (Evangelium) Johannem

ヨハネ (の福音書) が伝える (われらが主イエス・キリストの) 御受難

**演奏機会** 受難節。春分後の最初の満月のあとの日曜日が復活節で、その2日前の金曜日。

**初演** 1724年受難節。その後、様々な変化があり、第4稿まで存在が知られている。

**ドイツ語歌詞** ・聖書 ヨハネ伝18-19、途中マタイ伝26.75と27.51-52。

・コラール 15～16世紀頃の作。

・独唱曲などの自由詩 B.H.プロクセス作のものが多い。

**編成** 独唱 (S,A,T,B)、合唱4部 (S,A,T,B)、フルート2、オーボエ2 (オーボエ・ダモーレ、

オーボエ・ダ・カッチャ持ち替え)、弦 (ヴァイオリン2部、ヴィオラ)、

通奏低音 (ファゴット、チェロ、コントラバス、オルガン)、

ヴィオラ・ダモーレ2 (第19・20曲、弱音器付ヴァイオリンで代用)、

リュート (第19曲)、ヴィオラ・ダ・ガンバ (第20・30曲)

**独唱配役** ソプラノ：門番の女、アリア アルト：アリア

テノール：福音史家、下役、アリア バス：イエス、ペテロ、ピラト、アリア

**使用楽譜** Bärenreiter

## 歌詞対訳 (合唱は太字)

### Parte prima : 第1部

#### 1. Chor

Herr, unser Herrscher,

dessen Ruhm in allen Landen herrlich ist!**その誉れは全地において尊い!**

Zeig uns durch deine Passion,

daß du, der wahre Gottessohn,

zu aller Zeit,

auch in der größten Niedrigkeit,

verherrlicht worden bist!

#### 第1曲 合唱

主よ、われらの統治者よ、

あなたの受難によりわれらに示したまえ、

まことの神の子であるあなたこそ

あらゆる時も、

また大層卑しい時も、

尊い栄光を受けるべきであることを。

#### 2. Johannes 18.1-8

Jesus ging mit seinen Jüngern

über den Bach Kidron,

da war ein Garte,

darein ging Jesus und seine Jünger.

Judas aber, der ihn verriet,

wußte den Ort auch,

denn Jesus versammelte sich oft

daselbst mit seinen Jüngern.

Da nun Judas zu sich hatte genommen

die Schar

und der Hohenpriester und Pharisäer Diener,祭司長やパリサイ人の下役達を引き連れ、

kommt er dahin mit Fakkeln,

炬火、澄火、武器を携えてやって来た。

Lampen und mit Waffen.

Als nun Jesus wußte alles,

もはやイエスは何が自分に起こるのかを、

was ihm begegnen sollte,  
ging er hinaus und sprach zu ihnen:  
"Wen suchet ihr?"  
Sie antworteten ihm:  
**"Jesum von Nazareth."**  
Jesus spricht zu ihnen:  
"Ich bins."  
Judas aber, der ihn verriet,  
stund auch bei ihnen.  
Als nun Jesus zu ihnen sprach: Ich bins,  
wichen sie zurücke und fielen zu Boden.  
Da fragete er sie abermal:  
"Wen suchet ihr?"  
Sie aber sprachen:  
**"Jesum von Nazareth."**  
Jesus antwortete:  
"Ich hab's euch gesagt, daß ich sei,  
suchet ihr denn mich,  
so lasset diese gehen!"

### 3. Choral

**O große Lieb', o Lieb ohn alle Maße,  
die dich gebracht auf diese Marterstraße!  
Ich lebte mit der Welt  
in Lust und Freuden,  
und du mußt leiden.**

### 4. Johannes 18.9-11

Auf daß das Wort erfüllet würde,  
welches er gesagte:  
"Ich habe der keine verloren,  
die du mir gegeben hast."  
Da hatte Simon Petrus ein Schwert  
und zog es aus  
und schlug nach des Hohenpriesters Knecht  
und hieb ihm sein recht Ohr ab;  
und der Knecht hieß Malchus.  
Da sprach Jesus zu Petro:  
"Stecke dein Schwert in die Scheide!  
Soll ich den Kelch nicht trinken,  
den mir mein Vater gegeben hat?"

### 5. Choral

**Dein Will gescheh, Herr Gott, zugleich  
auf Erden wie im Himmelreich.**

全て知っていたので、  
進み出でて彼らに言った。  
「あなた方は誰を探しているのか？」  
彼らは答えた。  
**「ナザレのイエスを！」**  
イエスが彼らに言った。  
「私がイエスだ。」  
イエスを引き渡そうとしていたユダも、  
彼らと共に居た。  
イエスが「私がイエスだ。」と彼らに言った時、  
彼らはあとずさりして地に倒れた。  
そこでイエスは再び彼らに尋ねた。  
「あなた方は誰を探しているのか？」  
すると彼らは言った。  
**「ナザレのイエスを！」**  
イエスが答えた。  
「あなた方に言った通り、私がイエスだ。  
私を探しているのならば、  
この者たちは去らせてくれ。」

### 第3曲 コラール

おお大なる愛、おお限り無き愛である。  
あなたにこの責苦の路をもたらししたのは、  
私はこの世で快楽に馴染んでいるのに、  
あなたが苦しまねばならないとは。

### 第4曲 ヨハネ 18.9-11

これはイエスが既に言われた言葉が、  
成就されるためである。  
「私はあなたがくださった者達を、  
一人も失わなかった。」  
すると剣を携えていたシモン・ペテロが、  
これを抜いて、  
大司祭の下僕に打ちかかり、  
彼の右耳を斬り落とした。  
下僕の名はマルコスという。  
イエスはペテロに言った。  
「剣を鞘に収めよ！  
私は杯を飲むべきではないか、  
わが父が私にくださる杯を。」

### 第5曲 コラール

あなたの御意志が成就されますように、  
主なる神よ、  
天におけるように、地上でも。

**Gib uns Geduld in Leidenszeit,  
gehorsam sein in Lieb und Leid;  
wehr und steur allem Fleisch und Blut,  
das wider deinen Willen tut!**

#### **6. Johannes 18.12-14**

Die Schar aber und der Oberhauptmann  
und die Diener der Jüden nahmen Jesum  
und bunden ihn  
und führten ihn aufs erste zu Hannas,  
der war Kaiphas Schwäher,  
welcher des Jahres Hoherpriester war.  
Es war aber Kaiphas, der den Juden riet,  
es wäre gut, daß ein Mensch würde  
umbracht für das Volk.

#### **7. Arie-Alt**

Von den Strikken meiner Sünden  
mich zu entbinden,  
wird mein Heil gebunden.  
Mich von allen Lasterbeulen  
völlig zu heilen,  
läßt er sich verwunden.

#### **8. Johannes 18.15**

Simon Petrus aber folgte Jesu nach  
und ein ander Jünger.

#### **9. Arie-Sopran**

Ich folge dir gleichfalls  
mit freudigen Schritten  
und lasse dich nicht,  
mein Leben, mein Licht.  
Befördre den lauf  
und höre nicht auf,  
selbst an mir zu ziehen,  
zu schieben, zu bitten!

#### **10. Johannes 18.15-23**

Delselbige Jünger war  
dem Hohenpriester bekannt  
und ging mit Jesu hinein  
in des Hohenpriesters Palast.  
Petrus aber stund draußen für der Tür.  
Da ging der andere Jünger,  
der dem Hohenpriester bekannt war, hin aus

苦難の時にも私達に忍耐を与え、  
愛にも苦しみにも従順となり、  
すべての血肉の情を制し、  
あなたの御意志に逆らわないように。

#### **第6曲 ヨハネ 18.12-14**

さて兵隊と千卒長と、  
ユダヤ人らの下役達はイエスを捕らえ、  
彼を縛り、  
まずハンナスのもとに連れて行った。  
ハンナスは大祭司カヤパの義父だった。

またこのカヤパは、以前ユダヤ人らに、  
一人の人が民のために死ぬのは良いことだと  
提言した者である。

#### **第7曲 アリア・アルト**

わが罪の縛めから  
私を解き放つため、  
わが救い主は縛めにつかれた。  
私より全ての悪い腫瘍を  
全て癒そうと、  
彼自ら傷を受けた。

#### **第8曲 ヨハネ 18.15**

シモン・ペテロはイエスについて行った。  
もう一人の弟子と共に。

#### **第9曲 アリア・ソプラノ**

私もあなたについて行きます、  
喜ばしい足どりで、  
そしてあなたから離れません。  
わが生命、わが光なる君よ。  
歩みを助け、  
そして絶えず、  
自ら私を導くべく、  
押し、また誘ってください！

#### **第10曲 ヨハネ 18.15-23**

この弟子は大祭司の知人なので、  
イエスと共に  
大祭司邸の庭に入ったが、  
ペテロは門の外に立っていた。  
すると大祭司の知人である  
その弟子が来て、

und redete mit der Türhüterin  
und führte Petrum hinein.  
Da sprach die Magd,  
die Türhüterin, zu Petro:  
"Bist du nicht  
dieses Menschen Jünger einer?"  
Er sprach:  
"Ich bins nicht."  
Es stunden aber die Knechte und Diener  
und hatten ein Kohlfeu'r gemacht  
(denn es war kalt)  
und wärmten sich.  
Petrus aber stund bei ihnen  
und wärmte sich.  
Aber Hohenpriester fragte Jesum  
um seine Jünger und um seine Lehre.  
Jesus antwortete ihm:  
"Ich habe frei,  
öffentlich geredet für der Welt.  
Ich habe allezeit gelehret in der Schule  
und in dem tempel,  
da alle Juden zusammenkommen,  
und habe nichts im Verborgnen geredt.  
Was fragest du mich darum?  
Frage die darum, die gehöret haben,  
was ich zu ihnen geredet habe!  
Siehe, dieselbigen wissen,  
was ich gesaget habe."  
Als er aber solches redete,  
gab der Diener einer, die dabeistunden,  
Jesu einen Bakkenstreich und sprach:  
"Solltest du dem Hohenpriester  
also antworten?"  
Jesus aber antwortete:  
"Hab' ich übel geredt,  
so beweise es, daß es böse sei,  
hab' ich aber recht geredt,  
was schlägest du mich?"

## 11. Choral

**Wer hat dich so geschlagen,  
mein Heil, und dich mit Plagen**

**so übel zugericht'?**

**Du bist ja nicht ein Sünder  
wie wir und unsre Kinder;**

門番の女に言い  
ペテロを中に連れて行った。  
その時門番の女がペテロに言った。

「お前もあの人の弟子の一人ではないか？」

彼は言った。  
「私は彼の弟子ではない。」  
さて下僕らと下役の者どもは  
炭火をおこし  
(寒かったので)  
暖まっていた。  
ペテロは彼らの傍らに立って、  
暖まっていた。  
さて大祭司はイエスに  
弟子たちとその教えとについて尋ねた。  
イエスは彼に答えた。  
「私は公に語ってきた。

私はいつも会堂や  
宮で教えを授けてきた。  
そこにはユダヤ人も皆集っていた。  
密かには何も語っていない。  
なぜあなたは私に尋ねるのか？  
聞いた人々に尋ねよ、  
私が彼らに語ったことを！  
彼らは私が言ったことを知っている。」

イエスがこう言うと、  
傍らに立っていた下役共の一人が  
イエスに平手打ちをくらわせて言った。  
「大祭司に向かって何たる答えか？」

イエスが答えた。  
「もし私が間違ったことを言ったのなら、  
間違っている点を訴えよ。  
私が正しいことを言ったのなら、  
なぜ私を打つのか？」

## 第11曲 コラール

**誰があなたをこうも打ったのか、  
わが救い主よ、  
また誰があなたに責め苦を与え、  
こうも不当に裁いたのか？  
あなたは全く罪人ではない。  
私達やわが子らとは異なり**

von Missetaten weißt du nicht.

Ich, ich und meine Sünden,

die sich wie Körnlein finden  
des Sandes an dem Meer,  
die haben dir erregt  
das Elend, das dich schläget,  
und das betrübte Marterheer.

### 12. Johannes 18.24-27

Und Hannas sandte ihn gebunden  
zu dem Hohenpriester Kaiphas.  
Simon Petrus stund und wärmete sich,  
da sprachen sie zu ihm:  
"Bist du nicht seiner Jünger einer?"  
Er leugnete aber und sprach:  
"Ich bins nicht."  
Spricht des Hohenpriesters Knecht' einer,  
ein Gefreund'ter des,  
dem Petrus das Ohr abgehauen hatte:  
"Sahe ich dich nicht im Garten bei ihm?"

Da verleugnete Petrus abermal,  
und alsbald krahete der Hahn.  
(Matthäus 26.75)

Da gedachte Petrus an die Worte Jesu  
und ging hinaus und weinete bitterlich.

### 13. Arie-Tenor

Ach, mein Sinn,  
wo willst du endlich hin,  
wo soll ich mich erquicken?  
Bleib' ich hier,  
oder wünsch' ich mir  
Berg und Hügel auf den Rücken?  
bei der Welt ist gar kein Rat,  
und im Herzen  
stehn die Schmerzen meiner Missetat,  
weil der Knecht den Herrn verleugnet hat.

### 14. Choral

Petrus, der nicht denkt zurück,  
seinen Gott verneinet  
der doch auf ein' ernsten Blick  
bitterlichen weinet.

悪事を全くご存じない。

私です、

私とわが罪 (があなたを打ったの) です。  
それらが穀物のように積み、  
海の砂ほどにもなり、  
あなたをかかす窮地に追いやり、  
不幸にもあなたを打って、  
悲しい責め苦を負わせたのです。

### 第12曲 ヨハネ 18.24-27

さてハンナスはイエスを縛ったまま  
大祭司カヤパのもとに送った。  
シモン・ペテロは立って暖まっていると、  
そこに居る者らが彼に言った。  
「お前もあの人の弟子の一人ではないか？」  
彼は否定して言った。  
「私は彼の弟子ではない。」  
大祭司の下僕の一人で、  
ペテロに耳を斬り落とされた者と  
同じ出身の仲間が言う。  
「私はお前が園で彼と共に居るのを  
見たと思うが。」  
ペテロが再び否定すると、  
すぐに鶏が鳴いた。  
(マタイ 26.75)  
ペテロはイエスの言葉を思い出し、  
外に出て激しく泣いた。

### 第13曲 アリア・テノール

ああ、わが念いよ、  
お前はどこに逃れるのか？  
私はどこで息をつくべきか？  
私はここに留まるべきか、  
さもなければ自ら、  
山と丘を背負おうと願うべきか？  
世に頼ろうとも何の策もなく、  
心の内には、  
わが悪事ゆえの痛ましが留まる。  
下僕なる私が主を否んだのだから。

### 第14曲 コラール

ペテロは、主の警めを思い返さず、  
神を否定した。  
しかし厳かな主の目差しを前に、  
激しく泣いた。



Jesu, blikke mich auch an,  
wenn ich nicht will büßen;  
wenn ich Böses hab getan,  
rühre mein Gewissen!

イエスよ、私にも眼差しを注ぎたまえ、  
私が悔い改めを拒もうとする時。  
私が悪事を行う時、  
わが良心をゆさぶりたまえ。

(休憩)

Parte seconda : 第2部

15. Choral

Christus, der uns selig macht,  
kein Bös' hat begangen,  
der ward für uns in der Nacht  
als ein Dieb gefangen,  
geführt vor gottlose Leut  
und fälschlich verklaget,  
verlacht, verhöhnt und verspeit,  
wie denn die Schrift saget.

第15曲 コラール

われらを祝福されたキリストは、  
なんの悪事もなさっていないのに、  
われらに代わって暗い真夜中、  
盗人のように捕らえられ、  
神を恐れぬ人々の前に引き出され、  
偽りの罪で訴えられ、  
嘲けられ辱められ唾を受けた。  
まさに聖書が告げたように。

16. Johannes 18.28-36

Da führten sie Jesum  
von Kaipha vor das Richthaus,  
und es war frühe.  
Und sie gingen nicht in das Richthaus,  
auf daß sie nicht unrein würden,  
sondern Ostern essen möchten.  
Da ging Pilatus zu ihnen heraus und sprach:  
"Was bringet ihr für Klage  
wider diesen Menschen?  
Sie antworteten und sprachen zu ihm:  
"Wäre dieser nicht ein Übeltäter,  
wir hätten dir ihn nicht überantwortet."  
Da sprach Pilatus zu ihnen:  
"So nehmet ihr hin  
und richtet ihn nach eurem Gesetze!"  
Da sprachen die Jüden zu ihm:  
"Wir dürfen niemand töten."  
Auf daß erfüllet würde das Wort Jesu,  
welches er sagte, da er deutete,  
welches Todes er sterben würde.  
Da ging Pilatus wieder hin ein  
in das Richthaus und rief Jesu  
und sprach zu ihm:  
"Bist du der Jüden König?"  
Jesus antwortete:  
"Redest du das von dir selbst,  
oder habens dir andere von mir gesagt?"

第16曲 ヨハネ 18.28-36

さて人々はイエスを  
カヤパの元から総督官邸に連れて行った。  
そして夜が明けた。  
彼らは官邸に入らなかった。  
それは彼らが身を汚すことなく、  
過越しの食を守るためだった。  
さてピラトは彼らの前に行き言った。  
「お前達はこの人に対して、  
どんな訴えをしようというのか？」  
彼らは答えてピラトに言った。  
「悪事をした者でなければ、  
私達は彼をあなたに引き渡しません。」  
ピラトが彼らに言った。  
「お前達が彼を引き取り、  
お前達の法律に従って彼を裁け！」  
ユダヤ人らはピラトに言った。  
「私達には人を殺す権限がありません。」  
こうしてイエスの言葉が成就した。  
それは彼が、自分がどのように、  
死ぬかを語ったものだった。  
ピラトはまた官邸に入り、  
イエスを呼んで  
彼に言った。  
「お前はユダヤ人の王なのか？」  
イエスが答えた。  
「あなたはそれを自ら言うのか、  
それとも他人があなたに

Pilatus antwortete:  
"Bin ich ein Jude?  
Dein Volk und die Hohenpriester  
haben dich mir überantwortet;  
was hast du getan?"  
Jesus antwortete:  
"Mein Reich ist nicht von dieser Welt;  
wäre mein Reich von dieser Welt,  
meine Diener würden darop kämpfen,  
daß ich den Jüden  
nicht überantwortet würde;  
aber nun ist mein Reich nicht von dannen."

### 17. Choral

**Ach großer König, groß zu allen Zeiten,  
wie kann ich gnugsam  
diese Treu ausbreiten?  
Keins Menschen Herze  
mag indes ausdenken,  
was dir zu schenken.**

**Ich kann's mit meinen Sinnen  
nicht erreichen,  
womit doch dein Erbarmen zu vergleichen.  
Wie kann ich dir denn deine Liebestaten  
im Werk erstatten?**

### 18. Johannes 18.37-19.1

Da sprach Pilatus zu ihm:  
"So bist du dennoch ein König?"  
Jesus antwortete:  
"Du sagst's, ich bin ein König.  
Ich bin dazu geboren  
und die Welt kommen,  
daß ich die Wahrheit zeugen soll.  
Wer aus der Wahrheit ist,  
der höret meine Stimme."  
Spricht Pilatus zu ihm:  
"Was ist Wahrheit?"  
Und da er das gesaget,  
ging er wieder hinaus zu den Jüden  
und spricht zu ihnen:  
"Ich finde keine Schuld an ihm.  
Ihr habt aber eine Gewohnheit,

私のことを告げたのか？」  
ピラトが答えた。  
「私はユダヤ人か？」  
お前の国の人と祭司長らは  
お前を私に引き渡したのだぞ。  
お前は何をしたのか？」  
イエスは答えた。  
「私の国はこの世にはない。  
もし私の国がこの世ならば、  
私の下僕らが戦って、  
私をユダヤ人らの手に渡すようなことはない。  
しかし今や私の国はこの世にはない。」

### 第17曲 コラール

ああ偉大な王よ、いつも偉大な(王よ)。  
この真実をどう確かに伝えるべきか？

誰の心にも思い付かない、

あなたに捧げるべきものを。

私はわが念いを凝らしても至らない、

あなたの憐れみに比べるものには。  
どうやって私はあなたの愛の御業に、  
業で応えるべきか？

### 第18曲 ヨハネ 18.37-19.1

ピラトはイエスに言った。  
「それではお前はやはり王なのか？」  
イエスが答えた。  
「あなたの言う通り、私はある類いの王である。  
私はこのために生まれ、  
この世に来た。  
真理について証しをなすためである。  
真理に属する者は、  
私の声を聞く。」  
ピラトがイエスに言う。  
「真理とは何か？」  
こう言い置いて、  
再びユダヤ人らの前に行き  
彼らに言う。  
「私はこの人になんの咎も見い出せない。  
お前達には習わしがある、

daß ich euch einen losgebe;  
wollt ihr nun,  
daß ich euch der Juden König losgebe?  
Da schrienen sie wieder allesamt  
und sprachen:  
**"Nicht diesen, sondern Barrabam!"**  
Barrabas aber war ein Mörder.  
Da nahm Pilatus Jesum und geißelte ihn.

### 19. Arioso-Baß

Betrachte, meine Seel',  
mit ängstlichem Vergnügen,  
mit bitterer Lust  
und halb beklemmtem Herzen,  
dein höchstes Gut in Jesu Schmerzen,  
wie dir auf Dornen, so ihn stechen,  
die Himmelsschlüsselblumen blühn!  
Du kannst viel süße Frucht  
von seiner Wermut brechen,  
drum sieh ohn Unterlaß auf ihn!

### 20. Arie-Tenor

Erwäge, wie sein blutgefärbter Rücken  
in allen Stücken  
dem Himmel gleiche geht,  
daran, nachdem die Wasserwogen  
von unsrer Sündflut sich verzogen,  
der allerschönste Regenbogen  
als Gottes Gnadenzeichen steht!

### 21. Johannes 19.2-12

Und die Kriegsknechte flochten  
eine Krone von Dornen  
und setzten sie auf sein Haupt  
und legten ihm ein Purpurkleid an  
und sprachen:  
**"Sei begrüßet, lieber Jüdenkönig!"**  
Und gaben ihm Bakkenstreiche.  
Da ging Pilatus wieder heraus  
und sprach zu ihnen:  
"Sehet, ich führe ihn heraus zu euch,  
daß ihr erkenntet,  
daß ich keine Schuld an ihm finde."  
Also ging Jesus heraus  
und trug eine Dornenkrone und Purpurkleid.  
Pilatus sprach zu ihnen:

私が一人の囚人を赦すというものだ。  
さあお前達、  
私はユダヤ人の王を赦そうか？」  
彼らは皆再び叫んで言った。

**「この者ではなくバラバを！」**  
バラバは人殺しだった。  
そこでピラトはイエスを連れ鞭打ちに処した。

### 第19曲 アリオソ・バス

考えよ、わが魂よ、  
不安なる満足、  
苦しい快樂、  
また半ば塞がれた心で、  
イエスの苦悩の中にあるあなたの至高の善を。  
彼を刺す茨の上に、  
天の鍵の花が咲く！  
あなたは多くの甘い実を、  
彼が味わう苦艾から取ることを許される。  
ゆえに絶えず彼を仰ぎ見よ！

### 第20曲 アリア・テノール

思いはかれ、彼の血染めの背が  
いかに全てにわたり、  
天国を映し出しているかを、  
ゆえに逆巻き荒れたる  
われらの罪の洪水が引いた後、  
こよなく美しい虹が、  
神の恵みのしるしとして現われる。

### 第21曲 ヨハネ 19.2-12

また兵卒達は茨で冠を編み、  
イエスの頭にのせ、  
緋色の打掛けを着せ  
言った。  
**「万歳、愛すべきユダヤの王よ！」**  
そしてイエスに平手打ちをくらわせた。  
ピラトは再び外に行き  
人々に言った。  
「さあ、私を彼をお前達の前に連れ出そう。  
それはお前達に知らせるためだ、  
私が彼に何の咎も見い出さないことを。」  
そしてイエスが出て来た。  
茨の冠をかぶり緋の打掛けをまとっていた。  
ピラトは人々に言った。

"Sehet, welch ein Mensch!"  
 Da ihn die Hohenpriester  
 und die Diener sahen,  
 schrieten sie und sprachen:  
**"Kreuzige, kreuzige!"**  
 Pilatus sprach zu ihnen:  
 "Nehmet ihr ihn hin und kreuziget ihn;  
 denn ich finde keine Schuld an ihm!"  
 Die Jüden antworteten ihm:  
**"Wir haben ein Gesetz,  
 und nach dem Gesetz soll er sterben;  
 denn er hat sich selbst  
 zu Gottes Sohn gemacht."**  
 Da Pilatus das Wort hörete,  
 fürchtet' er sich noch mehr  
 und ging wieder hinein in das Richthaus,  
 und spricht zu Jesu:  
 "Von wannen bist du?"  
 Aber Jesus gab keine Antwortet.  
 Da sprach Pilatus zu ihm:  
 "Redest du nicht mit mir?  
 Weißest du nicht, daß ich Macht habe,  
 dich zu kreuzigen,  
 und Macht habe, dich loszugeben?"  
 Jesus antwortete.  
 "Du hättest keine Macht über mich,  
 wenn sie dir nicht wäre  
 von oben herab gegeben;  
 darum, der mich dir überantwortet hat,  
 der hat's größ're Sünde."  
 Von dem an trachtete Pilatus,  
 wie er ihn losließe.

\* 下線部：譜面では"Und er..."「そして彼は...」。主格明確化のためこう変えることがある。

## 22. Choral

**Durch dein Gefängnis, Gottes Sohn,  
 muß uns die Freiheit kommen;  
 Dein Kerker ist der Gnadenthron,  
 die Freistatt aller Frommen;  
 denn gingst du nicht die Knechtschaft ein,  
 müßt unsre Knechtschaft ewig sein.**

## 23. Johannes 19.12-17

Die Jüden aber schrieten und sprachen:  
**"Lässest du diesen los,  
 so bist du des Kaisers Freund nicht;**

「さあ、この人だ！」  
 祭司長や下役どもはイエスを見て、  
 叫んで言った。  
**「十字架につける、十字架につける！」**  
 ピラトが彼らに言った。  
 「お前達で彼を十字架につけよ。  
 私は彼に咎を見い出さないから。」  
 ユダヤ人らはピラトに答えた。  
**「私達には律法があり、  
 その律法によれば彼は死ぬべきです。  
 彼は自らを神の子となしたからです。」**

ピラトはこの言葉を聞いて、  
 ますます恐れ、  
 再び官邸の中に入って、  
 イエスに言う。  
 「お前はどこから来たのか？」  
 しかしイエスは答えなかった。  
 ピラトがイエスに言った。  
 「私に話さないのか？  
 私に権限があるのを知らないのか？  
 お前を十字架に付けるか、  
 あるいはお前を赦す権限が。」  
 イエスが答えた。  
 「あなたは私に対してなんの権限もない、  
 上より賜わるのでなければ。

したがって、私をあなたに渡した者は、  
 さらに大きな罪がある。」  
 この時からピラトは、  
 イエスを解き放とうと努めた。

## 第22曲 コラール

あなたの捕縛ゆえに、神の御子よ、  
 私達は自由になった。  
 あなたの牢獄は恵みの御座で、  
 全ての信じる者らの許しの場である。  
 あなたがもし奴隷に身を置かなければ、  
 私達の屈従は永遠に続いたろう。

## 第23曲 ヨハネ 19.12-17

しかしユダヤ人らは叫んで言った。  
**「あなたがもしこの者を解き放せば、  
 あなたはカイサルの忠臣ではない。」**

**denn wer sich zum Könige machet,  
der ist wider den Kaiser."**

Da Pilatus das Wort hörte,  
führte er Jesum heraus  
und setzte sich auf den Richtstuhl,  
an der Stätte, die da heißt: Hochpflaster,  
auf Ebräisch aber: Gabbatha.

Es war aber der Rüsttag in Ostern  
um die sechste Stunde,  
und er spricht zu den Jüden:

"Sehet, das ist euer König!"

Sie schrienen aber:

**"Weg, weg mit dem, kreuzige ihn!"**

Spricht Pilatus zu ihnen:

"Soll ich euren König kreuzigen?"

Die Hohenpriester antworteten:

**"Wir haben keinen König,  
denn den Kaiser."**

Da überantwortete er ihn,  
daß er gekreuziget würde.

Sie nahmen aber Jesum und führten ihn hin.

Und er trug sein Kreuz  
und ging hinaus zur Stätte,  
die da heißt 'Schädelstatt',  
welche heißt auf Ebräisch: Golgatha.

#### **24. Arie-Baß & Chor (Bold)**

Eilt, ihr angefochtenen Seelen,  
geht aus euren Marterhöhlen,  
eilt, **Wohin?** nach Golgatha!

Nehmet an des Glaubens Flügel,  
flieht, **wohin?** zum Kreuzeshügel,  
eure Wohlfahrt blüht allda!

#### **25. Johannes 19.18-22**

Allda kreuzigten sie ihn,  
und mit ihm zweien andere zu beiden Seiten,  
Jesum aber mitten inne.

Pilatus aber schrieb eine Überschrift  
und setzte sie auf das Kreuz,  
und war geschrieben:

"Jesus von Nazareth, der Jüden König".

Diese Überschrift lasen viel Jüden,  
denn die Stätte war nahe bei der Stadt,  
da Jesus gekreuziget ist.

Und es war geschrieben auf ebräische,

自らを王とする者は、  
カイサルに叛く者です。」

ピラトはこの言葉を聞いて、  
イエスを外に連れ出し、  
裁きの座に就いた。

そこは「敷石」、  
ヘブル語で「ガバタ」と呼ばれていた。

この日は過越の祭の備え日で、  
時は昼の十二時頃だった。

ピラトはユダヤ人らに言う。

「さあ、お前達の王だ！」

しかし彼らは叫んだ。

「葬れ、彼を葬れ、彼を十字架に付けよ！」

ピラトが彼らに言う。

「私はお前達の王を十字架に付けるべきか？」  
祭司長らが答えた。

「私達にはカイサルの他に王はいません。」

そこでピラトはイエスを十字架に付けるため、  
引き渡した。

彼らはイエスの身柄を受け取り連れて行った。

イエスは十字架を背負って、  
「髑髏の所」へと出でいった。

そこはヘブル語でゴルゴタと呼ばれていた。

#### **第24曲 アリア・バスと合唱 (強調)**

急げ、悩める魂よ、  
お前達の責め苦の穴より出て、  
急げ、 **どこへ?** ゴルゴタへ!

信仰の翼を付け、  
逃れよ、 **どこへ?** 十字架の丘へ!  
お前達の幸いはそこにこそ咲く!

#### **第25曲 ヨハネ 19.18-22**

そこで彼らはイエスを十字架に付けた。

また彼と共に他の二人も両側に置き、  
イエスを真中に置いた。

ピラトは罪状標を書いて、  
十字架の上に掲げた。

それはこう記された。

「ナザレのイエス、ユダヤ人の王」  
多くのユダヤ人がこの罪状標を読んだ。

イエスが十字架に付けられた場所は、  
都に近かったからだ。

罪状標はヘブル、



griechische und lateinische Sprache.  
Da sprachen die Hohenpriester der Juden  
zu Pilato:

**"Schreibe nicht: der Juden König,  
sondern daß er gesaget habe:  
'Ich bin der Juden König.' "**

Pilatus antwortet:

"Was ich geschrieben habe,  
das habe ich geschrieben."

## 26. Choral

**In meines Herzens Grunde,  
dein Nam' und Kreuz allein  
funkelt all Zeit und Stunde,  
drauf kann ich fröhlich sein.  
Erschein mir in dem Bilde  
zu Trost in meiner Not,  
wie du, Herr Christ, so milde  
dich hast geblut' zu Tod!**

## 27. Johannes 19.23-27

Die Kreigsknechte aber,  
da sie Jesum gekreuziget hatten,  
nahmen seine Kleider  
und machten vier Teile,  
einem jeglichen Kriegesknechte sein Teil,  
dazu auch den Rock.

Der Rock aber war ungenähet,  
von oben an gewürket durch und durch.

Da sprachen sie untereinander:

**"Lasset uns den nicht zerteilen,  
sondern darum losen, wes er sein soll."**

Auf daß erfüllet würde die Schrift,  
die da saget:

"Sie haben meine Kleider unter sich geteilet  
und haben über meinen Rock  
das Los geworfen."

Solches taten die Kriegesknechte.  
Es stund aber bei dem Kreuze Jesu  
seine Mutter und seiner Mutter schwester,  
Maria, Kleophas Weib,  
und Maria Magdalena.

Da nun Jesus seine Mutter sahe  
und den Jünger dabei stehen,  
den er lieb hatte,  
spricht er zu seiner Mutter:

ギリシア、ラテンの各語で記された。  
するとユダヤ人の祭司長らがピラトに言った。

**「『ユダヤ人の王』とは記さず、  
『自称：ユダヤ人の王』と  
記してください。」**

ピラトが答えた。

**「私が記したことは、  
私が記したままにしておけ。」**

## 第26曲 コラール

わが心の底に、  
あなたの御名と十字架だけが、  
いついかなる時も変わらず閃き輝き、  
それゆえ私は喜ばしい。  
私に御姿を現わし  
私が悩める時には慰めたまえ。  
いかに主キリストよ、かくも安らかに、  
血を流しながら死にたまうことか！

## 第27曲 ヨハネ 19.23-27

さて兵卒達は、  
イエスを十字架に付けた後、  
その衣服を取り、  
四つに分け、  
各兵卒が分け前を得た。  
また肌着も取った。

しかしその肌着は縫い目がなく、  
上からひと続きに織ってあった。  
そこで兵卒達は口々に言った。

**「これは裂かず、  
くじ引きで誰が得るかを決めよう。」**

そは聖書が成就するためである。  
こう記してある。

**「彼らは互いに私の衣服を分け、  
私の肌着はくじ引きにした。」**

兵卒達はその通りにした。  
さてイエスの十字架の傍らには  
イエスの母とその姉妹と  
クレオパの妻マリヤとマグダラのマリヤが居た。

イエスは母と  
愛弟子が近くに居るのを見て、

イエスが母に言う。

"Weib, siehe, das ist dein Sohn!"  
Darnach spricht er zu dem Jünger:  
"Siehe, das ist deine Mutter!"

## 28. Choral

**Er nahm alles wohl in acht  
in der letzten Stunde,  
seine Mutter noch bedacht,  
setzt ihr ein' Vormunde.  
O Mensch, mache Richtigkeit,  
Gott und Menschen liebe,  
stirb darauf ohn' alles Leid,  
und dich nicht betrübe!**

## 29. Johannes 19.27-30

Und von Stund' an nahm sie  
der Jünger zu sich.  
Darnach, als Jesus wußte,  
daß schon alles vollbracht war,  
daß die Schrift erfüllet würde, spricht er:  
"Mich dürstet!"  
Da stund ein Gefäße voll Essigs.  
Sie fülleten aber einen schwamm mit Essig  
und legten ihn um einen Isopen,  
und hielten es ihm dar zum Munde.  
Da nun Jesus den Essig genommen hatte,  
sprach er:  
"Es ist vollbracht!"

## 30. Arie-Alt

Es ist vollbracht!  
O Trost vor die gekränkten Seelen!  
Die Trauernacht  
läßt nun die letzte Stunde zählen.  
Der Held aus Juda siegt mit Macht  
und schließt den Kampf.

## 31. Johannes 19.30

Und neiget das Haupt und verschied.

## 32. Arie-Baß & Choral (Bold)

Mein teurer Heiland, laß dich fragen,  
**Jesu, der du warest tot,**  
da du nunmehr ans Kreuz geschlagen  
und selbst gesagt: Es ist vollbracht,  
**lebest nun ohn' Ende,**

「女よ、さあ、彼があなたの息子です！」  
それからイエスはその弟子に言う。  
「さあ、この人があなたの母です！」

## 第28曲 コラール

彼は全てをよく心に留めた、  
最期の時も。  
その御母にも気づかい、  
これに後見人を定められた。  
おお人よ、身の周りを正し、  
神と人とを愛し  
時が来たならば憂いなく死に、  
悔いの悲しみを残さぬように。

## 第29曲 ヨハネ 19.27-30

この時よりその弟子はイエスの母を引き取った。

こののち、イエスは、  
全てが既に成し遂げられたのを知り、  
聖書が成就されるため、言う。  
「私は喉が渴いた！」  
そこに酸い葡萄酒の満ちた器があった。  
そこで彼らはその葡萄酒を海綿に含ませ、  
ヒソブ(植物の名)の枝に付け、  
イエスの口に付けてやった。  
イエスはその海綿を受け、  
言った。  
「全て終わった！」

## 第30曲 アリア・アルト

全て終わった！  
病んだ魂の慰めよ！  
悲しみの夜は  
今や最期の時刻を告げた。  
ユダより来た勇士は勢いをもって勝ち、  
戦いを終わらせたもう。

## 第31曲 ヨハネ 19.30

そして首をたれ息を引き取った。

## 第32曲 アリア・バスとコラール (太字)

わが尊い救い主よ、あなたにお尋ねします、  
**死んでしまったあなた、**イエスは、  
あなたはいまや十字架に付けられ、  
みずから「全て終わった」と言われた。  
**いまや終わることなく生きたもう。**

bin ich vom Sterben frei gemacht?  
**in der letzten Todesnot  
nirgend mich hinwende**  
Kann ich durch deine Pein und Sterben  
das Himmelreich ererben?  
Ist aller Welt Erlösung da?  
**als zu dir, der mich versüht,  
o du lieber Herre!**

Du kannst vor Schmerzen zwar nichts sagen;  
**Gib mir nur, was du verdienst,**  
doch neigest du das Haupt  
und sprichst stillschweigend: ja.  
**mehr ich nicht begehre!**

私は死より解き放たれたのでしょうか?  
**最期の死の苦しみにあって  
私はどこに頼り行くべきか、**  
私はあなたの苦痛と死により  
天国を継ぎうるのでしょうか?  
全ての世の救いは成ったのでしょうか?  
**私を贖われたあなたの他には、  
おおあなた、愛すべき主よ!**  
あなたは苦痛にももの言えませんが、  
**ただあなたの得た救いを私にいただければ、**  
あなたは首をたれて、  
無言で告げられます、そうと。  
**私は更には何も望みません!**

### 33. Matthäus 27.51-52

Und siehe da,  
der Vorhang im Tempel zerriß in zwei Stück  
von oben an bis unten aus.  
Und die Erde erbebete,  
und die Felsen zerrissen,  
und die Gräber täten sich auf,  
und stunden auf viel Leiber der Heiligen.

### 第33曲 マタイ 27.51-52

すると見よ、  
神殿の幕が真っ二つに  
上から下まで裂けた。  
更に地は震い、  
岩は裂け、  
墓が開いて、  
多くの聖徒の体が蘇った。

### 34. Arioso-Tenor

Mein Herz, indem die ganze Welt  
bei Jesu Leiden gleichfalls leidet,  
die Sonne sich in Trauer kleidet,  
der Vorhang reißt, der Fels zerfällt,  
die Erde bebt, die Gräber spalten,  
weil sie den Schöpfer sehn erkalten,  
was willst du deines Ortes tun?

### 第34曲 アリオソ・テノール

わが心よ、全世界が  
イエスの受難に共に苦しみ、  
日は悲しみの黒衣をまとい、  
幕は裂け、岩は砕け、  
地は震い、墓は口を開け、  
造り主が冷たくなったのを見て、  
あなたは自分の所で何を成すべきか?

### 35. Arie-Sopran

Zerfließe, mein Herze, in Fluten der Zähren,  
dem Höchsten zu Ehren!  
Erzähle der Welt und dem Himmel die Not:  
dein Jesus ist tot!

### 第35曲 アリア・ソプラノ

融けて流れよ、わが心よ、涙の流れに、  
至高の方に栄光を映すため!  
世にも天にもこの悲しみを告げよ、  
あなたのイエスは死んでしまわれたと!

### 36. Johannes 19.31-37

Die Jüden aber, dieweil es der Rüsttag war,  
daß nicht die Leichname am Kreuze blieben  
den Sabbath über  
(denn desselbigen Sabbaths Tag,  
war sehr groß)  
baten sie Pilatum,  
daß ihre Beine gebrochen

### 第36曲 ヨハネ 19.31-37

さてユダヤ人達は、この日は備え日だったので、  
安息日に屍体を十字架の上に留め置かないように  
(この度の安息日は大きかったので)  
ピラトに願い、  
磔られた者らの脛を折って、

und sie abgenommen würden.  
Da kamen die Kriegsknechte  
und brachen dem ersten die Beine  
und dem andern,  
der mit ihm gekreuziget war.  
Als sie aber zu Jesu kamen,  
da sie sahen, daß er schon gestorben war,  
brachen sie ihm die Beine nicht;  
sondern der Kriegsknechte einer  
eröffnete seine Seite mit einem Speer,  
und alsobald ging Blut und Wasser heraus.  
Und der das gesehen hat,  
der hat es bezeuget,  
und sein Zeugnis ist wahr,  
und derselbige weiß,  
daß er die Wahrheit saget,  
auf daß ihr gläubet.  
Denn solches ist geschehen,  
auf daß die Schrift erfüllet würde:  
"Ihr sollet ihm kein Bein zerbrechen".  
Und abermal spricht eine andere Schrift:  
"Sie werden sehen,  
in welchen sie gestochen haben".

### 37. Choral

**O hilf, Christe, Gottes Sohn,  
durch dein bitter Leiden,  
daß wir dir stets untertan  
all Untugend meiden,  
deinen Tod und sein Ursach  
fruchtbarlich bedenken,  
dafür, wiewohl arm und schwach,  
dir Dankopfer schenken!**

### 38. Johannes 19.38-42

Darnach bat Pilatum Joseph von Arimathia,  
der ein Jünger Jesu war  
(doch heimlich aus Furcht von den Jüden),  
daß er möchte abnehmen den Leichnam Jesu.  
Und Pilatus erlaubete es.  
Derowegen kam er  
und nahm den Leichnam Jesu herab.  
Es kam aber auch Nikodemus,  
der vormals bei der Nacht  
zu Jesu kommen war,  
und brachte Myrrhen

屍体を取り除こうとした。  
そこで兵卒達が来て、  
イエスと共に十字架に付けられた第一の者と  
他のものの脛を折った。

さて彼らがイエスのところに来て、  
既にイエスが死んでいるのを見て、  
彼の脛は折らなかった。  
しかし一人の兵卒が  
槍でイエスの脇を突くと、  
たちまち血と水が流れ出た。  
これを見た者は、証しをした。

その証しは真理である。  
そして彼は、  
真理を言ったことを知る。  
これはあなた方もまた信じるからである。  
これらのことが成されたのは、  
聖書が成就するためである。  
「お前達は彼の骨を一つも砕くことはない」。  
また他の聖書にはこう記されている。  
「彼らは自分が刺した者を見るだろう」。

### 第37曲 コラール

おお救いたまえ、キリスト、神の子よ、  
厳しきあなたの受難により、  
私達は常にあなたに従い  
すべての悪を避け、  
あなたの死とその原因を  
実りをもって思い、  
それゆえ貧しく弱くても  
あなたに感謝のいけにえを捧げさせたまえ！

### 第38曲 ヨハネ 19.38-42

こののちアリマタヤのヨセフという、  
イエスの弟子だった者が  
(ユダヤ人らを恐れてそれは秘密だった)、  
イエスの屍体の引き取りをピラトに願った。  
ピラトはこれを許した。  
そこでヨセフが来て、  
イエスの屍体を降した。  
またニコデモという、  
かの夜にイエスのもとを訪ねた者も、

没薬とアロエを混ぜ合わせたものを

und Aloen unter einander  
bei hundert Pfunden.  
Da Nahmen sie den Leichnam Jesu  
und bunden ihn in leinen Tücher  
mit Spezereien,  
wie die Jüden pflegen zu begraben.  
Es war aber an der Stätte,  
da er gekreuziget ward, ein Garte,  
und im Garten ein neu Grab,  
in welches niemand je geleet war.  
Dasselbst hin legten sie Jesum,  
um des Rüsttags willen der Jüden,  
dieweil das Grab nahe war.

### 39. Chor

**Ruht wohl, ihr heiligen Gebeine,  
die ich nun weiter nicht beweine,  
ruht wohl  
und bringt auch mich zur Ruh!  
Das Grab, so euch bestimmt ist  
und ferner keine Not umschließt,  
macht mir den Himmel auf  
und schließt die Hölle zu.**

### 40. Choral

**Ach Herr, laß dein lieb Engelein  
am letzten End die Seele mein  
in Abrahams Schoß tragen,  
den Leib in sei'm Schlafkämmerlein,  
gar sanft ohn einge Qual und Pein  
ruhn bis am jüngsten Tage.  
Alsdenn vom Tod erwecke mich,  
daß meine Augen sehen dich  
in aller Freud, o Gottessohn,  
mein Heiland und Genadenthron!  
Herr Jesu Christ,  
erhöre mich, erhöre mich,  
ich will dich preisen ewiglich!**

百斤ばかり携えて来た。

さて彼らはイエスの屍体を受け取り、  
香料と一緒に亜麻布で巻いた。

これはユダヤ人の葬りの習わしの通りである。  
イエスが十字架に付けられたところに  
園があった。  
園の中に、  
まだ人を葬ったことのない新しい墓があった。  
そこで彼らはここにイエスを納めた。  
その日はユダヤ人の備え日で、  
この墓が近かったからである。

### 第39曲 合唱

**安らかに憩いたまえ、聖なる御軀よ、  
もはや私は涙を流さず、  
安らかに憩い、  
私にも憩いをもたらしたまえ！  
あなたに定められた墓は、  
今後いかなる悩みにも閉じることなく、  
私に天への戸を開き  
陰府への道を閉ざしてくれるでしょう。**

### 第40曲 コラール

**ああ主よ、あなたの愛しい御使いに、  
最期を迎えたわが魂を  
アブラハムのもとに運ばせたまえ。  
肉体は彼の寝室に  
苦しみも痛みもない全くの安らぎの内に  
この世の終りの日まで憩わせたまえ。  
そして後に私を死より目覚めさせ、  
わが目にあなたを見させたまえ。  
全ての喜びの内に、おお神の子よ、  
わが救い主にて恵みの御座、  
主イエス・キリスト、  
わが声を聞きたまえ、  
私はあなたを永遠に讃えます。**

- ・参考 - 杉山好、礒山雅の両氏の解説および訳
- ・「上演曲目概説と歌詞訳」に関するご意見・ご質問は小川与半(下記)へお寄せください。  
Eメール: [ogawa-yh@classic.interq.or.jp](mailto:ogawa-yh@classic.interq.or.jp)、ホームページ: <http://www.interq.or.jp/classic/ogawa-yh/>



# 浜松バッハ研究会演奏活動年譜

## 主催公演

| 上演日                 | 上演曲目                                 | 指揮   | 上演会場      |
|---------------------|--------------------------------------|------|-----------|
| 1985.12.26          | バッハ「クリスマス・オラトリオ」第1～3部                | 河野周平 | 遠州栄光教会    |
| 1986. 3.28          | バッハ「マタイ受難曲」朗読と抜粋                     | 河野周平 | 遠州栄光教会    |
| 1986.12.22          | バッハ「クリスマス・オラトリオ」第1～3部                | 河野周平 | 遠州栄光教会    |
| 1987. 4.13          | バッハ「マタイ受難曲」朗読と抜粋                     | 河野周平 | 遠州栄光教会    |
| 1988. 3.21          | バッハ「マタイ受難曲」一部割愛                      | 河野周平 | 福祉文化会館    |
| 1988.12.26          | バッハ「クリスマス・オラトリオ」第4～6部                | 河野周平 | 遠州栄光教会    |
| 1990.10. 7          | バッハ「ミサ曲口短調」                          | 三澤洋史 | 福祉文化会館    |
| 1990.12.16          | バッハ「クリスマス・オラトリオ」第1～3部                | 三澤洋史 | 遠州栄光教会    |
| 1991. 8.12          | バッハ「ヨハネ受難曲」朗読と合唱                     | 三澤洋史 | 龍山村森林文化会館 |
| 1992. 3.22          | バッハ「ヨハネ受難曲」                          | 三澤洋史 | 福祉文化会館    |
| 1993. 3.21          | ヘンデル「メサイア」                           | 三澤洋史 | 福祉文化会館    |
| 1994. 6.12          | 「無伴奏合唱への誘い」BWV225/229他               | 三澤洋史 | 遠州栄光教会    |
| 1995. 1.22          | 「ニューイヤーコンサート」バッハ名曲選他                 | 三澤洋史 | 遠州栄光教会    |
| 1996. 2.18          | バッハ「マタイ受難曲」全曲                        | 三澤洋史 | アクト中ホール   |
| 1997. 2.16          | バッハ「マニフィカート」<br>モーツァルト「レクイエム（バイヤー版）」 | 三澤洋史 | アクト中ホール   |
| 1998. 4. 5          | バッハ：BWV227、BWV106、BWV131他            | 三澤洋史 | 福祉文化会館    |
| 2000. 2.13          | バッハ「ミサ曲口短調」                          | 三澤洋史 | アクト中ホール   |
| 2000.12.29～2001.1.8 | ドイツ演奏旅行 / 「ミサ曲口短調」他                  | 三澤洋史 | ライブツィヒ他   |
| 2001. 4.22          | バッハ「復活祭オラトリオ」他                       | 三澤洋史 | アクト中ホール   |

## 合同・協賛公演

| 上演日        | 上演曲目および内容   | 上演会場      |
|------------|---|-----------|
| 1986. 9.15 | 浜松クリスチャン・クワイアとの合同演奏会<br>モーツァルト：Sancta Maria K273, Regina Coeli K276<br>S. 藤井多恵子、Pf. 鈴木敦子、Orch. カペラ・アカデミカ    | 遠州栄光教会    |
| 1986.10.19 | 「ムーンライト・コンサート」協賛  | 天竜・月光山海蔵寺 |
| 1987. 9.20 | 教会音楽コンサート協賛 - BWV56/80<br>Br. 今仲幸雄  | 遠州栄光教会    |
| 1987.10. 9 | 「ムーンライト・コンサート」協賛  | 天竜・月光山海蔵寺 |
| 1988. 3. 5 | 正泉寺「山寺音楽会」協賛<br>バッハ「マタイ受難曲」コラールとその原曲  | 引佐郡井伊谷正泉寺 |
| 1991. 3.17 | 瑞穂会ピアノ発表会賛助出演<br>モーツァルト：12番ミサよりキリエとグロリア、Ave verum corpus、<br>バッハ：BWV140よりコラール                               | クリエート浜松   |
| 1991. 6.30 | 掛川市駅南学習センター美感ホールのオープニング<br>モーツァルト：Sancta Maria K273, Regina Coeli K276, Ave verum corpus<br>Orch. カペラ・アカデミカ | 掛川市美感ホール  |
| 1991.12.23 | 市政80周年記念ラートハウス・コンツェルト<br>バッハ「クリスマス・オラトリオ」抜粋、Orch. カペラ・アカデミカ   | 浜松市役所ホール  |

# 合唱団員募集

## 浜松バッハ研究会

浜松バッハ研究会はJ.S.バッハの声楽作品を中心に、大作やカンタータ・モテトなどを取り上げ、管弦楽団と共に上演してまいりましたが、早いもので2005年で創立20周年となります。今後もバッハの声楽作品の魅力をひとりでも多くの皆様にお伝えすべく、活動を続けてまいりたいと思っております。このような私たちの演奏活動に興味をお持ちの方は、ぜひ一度練習場までお越しください。

- 練習場** ・ 積志公民館 (下図左) ほか
- 練習日時** ・ 毎週土曜日 19:00 ~ 21:30  
・ 月 1 回三澤先生の練習 主に日曜日 13:00 ~ 17:00
- 会費** 月額2500円 ( 学生2000円、高校生1500円 )
- 連絡先** 早川徳次 ( 053-472-0341[FAX可]、E-mail: tmmmykw@mb.infoweb.ne.jp )
- ホームページ** <http://www.tcp-ip.or.jp/~bach/>、E-mail: bach@tcp-ip.or.jp

## 豊橋バッハアンサンブル

バッハを歌いたい、だけど毎週浜松まで出かけるのは無理...という豊橋在住の人達が集まり、1994年8月にできた合唱団が豊橋バッハアンサンブルで、いわば浜松バッハ研究会の分身です。毎週豊橋で練習し、月 1 回は浜松に出かけて、浜松バッハ研究会と一緒に、三澤先生の練習に参加しています。豊橋及びその近くにお住まいで、バッハの声楽作品を歌いたい方は、ぜひ一度練習を見にお越しください。

- 練習** ・ 毎週金曜日 19:45 ~ 21:45、八町小学校音楽室 (下図右) 運動場南東角1F  
・ 月 1 回三澤先生の練習 主に日曜日13:00 ~ 17:00 浜松市積志公民館ほか
- 会費** 月額1500円
- 連絡先** 安井研一 ( 0532-47-0676 )

